

## 職員による自己評価

- A「業務改善」について
- ・医療型児童発達支援のクラスは、担任を軸に通園スタッフ・医療職種、との適切な連携をより密に行い、合同プログラムを行うなどを情報共有も必要である。
- B「適切な支援の提供」について
- ・子どもの状態像や障害種別が多岐にわたるため、お子さんの状態像や課題を考慮しながら他職種との連携を密に行い支援を行っている。
- C「関係機関との連携」について
- ・併用している園や学校、他事業所の先生に通園の療育に参加していただく「療育参観」の機会が有効であり引き続き実施していきたい。また必要に応じて園訪問実施によりさらに連携を深めていきたい。
- D「保護者への説明等」について
- ・個々の状態像に合わせた支援の目的を保護者に明確に説明していけるよう、通園職員内での方向性を統一していく
- E「非常時等の対応」について
- ・保護者も参加する地震や火災を想定した訓練を毎月実施しているが、いくつかの経路や場所の避難、日にち・場所未設定を現実的に実施したい。

## 保護者による評価

- A「適切な支援の提供」について
- ・概ね全員が「はい」と回答しており高い評価を得られている。支援計画に沿った支援や活動の工夫を感じている方もおられる。
- B「保護者への説明等」について
- ・ほとんどの方が、適切な説明が出来ているに「はい」としている。親の会主催の保護者同士の活動や茶話会は好評だが、保護者への支援としては「どちらとも言えない」が2名。  
「父親の交流の機会があつてよかった」
- C「非常時の対応」について
- ・ほとんどの方が「災害のインフォメーション説明や非常災害に備えた訓練が行っているか」について「はい」の回答だが、頻度の少ない方は訓練回数も少なく「いいえ」との回答もあった。
- D「満足度」について
- ・「センターの支援に満足しているか」は「はい」との回答を全員にいただく。

## 事業所内での分析

- 今回のアンケートでは、ほとんどの項目に「はい」が多く、高い評価をいただいた。民間の児童発達支援との大きな違いは、親子で通園していただき、お子さんの特性や対応を共有し、ご家族以外の人に伝える準備をしているが、2歳から4年間長く通う方もいる中では、年齢ごとの療育の目的を明確にし、保護者と共有すること。保護者同士の年齢を超えた立てのつながり・クラスを超えた横のつながりが持てるような場の設定をすること。児童発達支援の勉強会への参加などお子さんに合わせた設定を行うこと。また、保護者の方がお子さんと一緒に楽しめるプログラムの工夫や開発を行い、バリエーションを増やしていくことが今後も必要と感じる。
- 要医療重心児のお子さんが、安全に遊びの経験が出来るよう、また1年単位で元気に継続して通っていくことができるように、看護師を含む他職種と連携して、環境や支援内容の充実を図っていく必要がある。保護者の想いや願いを尊重しながら、通園だけでなくセンター全体で支援できる内容を検討し保護者と共同で療育を進めていきたいと思う。  
分析・検討してみても…
- 保護者とのコミュニケーションを引き続き積極的に図り、必要な情報提供や説明等を丁寧に行っていく。また、お子さんの状態が多岐にわたる為、お子さんの状態像を充分に把握し、姿勢・食形態などの関わりの個別化を安全に行える構造を引き続き確立していく必要がある。

分析・検討してみて…

### 事業所の強み

- お子さんに対する支援と保護者に対する支援の両面から行っており、療育場面に保護者も参加し、その場でお子さんの様子を見ながら、障害特性について職員が解説することが出来、保護者がお子さんへの理解を深めながら、特性に合った関わり方を実践でき、就学に向けてお子さんの特性を言語化できるようになる。
- 福祉と医療の一体運営をしているため、担任だけでなく、様々な職種による専門性を集団療育に取り入れながらチームアプローチを行い、チーム間による一貫した療育を実施できる。
- お子さんに対する支援は、お子さんの障害特性または健康状態に合わせて、個々のペースや必要な構造化された環境設定の中で、お子さんが見通しをもって安心して安全に活動に参加し、達成感が持てる取組をとおして、個々の能力を最大限に伸ばしていけるようお子さんに合わせて働きかけている。
- 保護者同士のつながりが持てるよう、コミュニケーションがとれる環境設定を通園入園時期に合わせて設定している。また、入園前から卒園までライフステージごとの勉強会を設定で

### 事業所の改善点

- 両親就労家庭の増加等、保護者のニーズが多様化していることから、個々の家庭状況やお子さんの状態に合わせ、頻度や療育方針を設定していくこと。また、2歳児から通園に親子で通う中、4年間の親子通園で何を目指していくのかを明確にし、保護者・職員の共通認識を持ちながら療育を進めていくことが必要。
- 増え続けている利用希望児の多様化する障害像やニーズに対応するためには、新たなサービスの創出と、地域の関係機関と密接に連携した体制強化が必要。センター内の関係職種にとどまらず、幼稚園・保育所・学校・子育て支援・区・医療関係・民間児童発達支援等々とのカンファレンスや情報交換などの実施から連携し、ご家族に合ったサービスを具現化していくことを積極的に行っていく、家庭生活がより安定したものになるよう保護者支援、地域支援について充実を図ることが必要となる。

### ～自己評価を行っての事業所としての感想など～

アンケート結果では、昨年度に引き続き、多くの項目で高い評価を頂き大きな励みになりましたが、「はい」以外のお答えに対して、保護者の方の思いや願いを推測し、利用者の方に満足していただけるように改善に努めていきたいと思っております。今後も療育の質を高め、保護者からより一層信頼される事業展開を行っていきたいと思っております。

事業所名 横浜市北部地域療育センター  
担当者 園長 平安寺晴美

## 職員による自己評価

- A 「適切な支援の提供」について
- ・ 個々のお子さんの発達段階や特性を理解して、優先順位をつけながら個別支援計画書の目標や支援内容を深めているが、お子さんの状態に合わせ支援のバリエーションを広げていく。
- B 「保護者への説明等」について
- ・ 個々の個別支援計画書に基づいて、支援内容を組み立てて、実際の支援を親子通園時に見ていただき、意図を説明している。保護者の方の思いや願いを受け入れ、支援内容に具体的に反映する技術が必要。
- C 「非常時の対応」について
- ・ 保護者も参加する地震や火災を想定した訓練を毎月実施しているが、いくつかの経路や場所の避難、日にち・場所未設定を現実的に実施したい。緊急時の職員マニュアルは周知している。
- D 「満足度」について
- ・ 概ね満足を得いたが、子どもが通園を楽しみにしている表出を引き出すことが支援の原点

## 保護者による評価

- A 「適切な支援の提供」について
- ・ 概ね全員が「はい」と回答しており高い評価を得られているが、「支援計画に沿った支援」「活動プログラムへの工夫」に対してどちらとも言えないとの回答もあり。課題へのチャレンジや身辺自立への支援時間が少ない。
- B 「保護者への説明等」について
- ・ 概ね全員が、適切な説明が出来ているに「はい」と回答。保護者の思いや願いに対してのご要望あり。
- C 「非常時の対応」について
- ほとんどの方が「災害のインフォメーション説明や非常災害に備えた訓練が行えているか」について「はい」の回答だが、「緊急時の具体的対応を知りたい」とのご要望あり。
- D 「満足度」について
- ・ 「センターの支援に満足しているか」は概ね全員に「はい」との回答をいただく。

## 事業所内での分析

- 適切な支援の提供に関しては、親子通園で通って来て頂いている中で、大半の方から「満足」の評価を頂いたが、具体的な支援内容に関しては、固定されている印象を持たれる方もいる。、こちら意図や目的を伝える作業が一面的にならないように、親子通園で参加されている時間の中で、保護者の思いや願いを汲み取り、チャレンジメニューも提供できる療育の幅を広げることが求められる。
- 保護者への説明に関しては、こちらの支援計画の説明だけでなく、保護者の方の知りたい内容・情報・タイミングを把握し、タイムリーに情報交換ができる枠組みの工夫も必要。親子通園の療育中のみならず、保護者教室・座談会を設定し、保護者が選択して興味のある知りたい話題を受けることができる仕組みを作るなど工夫も必要。また、通園という大きな組織が安心して運営できる為に、緊急時の対応や療育に対する考え方など、保護者が困った時に確認できるよう明文化したものを作成していくことが安心につながると考える。また、保護者が相談したいときにコミュニケーションがタイムリーに行える仕組みの整備も、思いをそのまま抱えて療育に参加することなく、疑問をすぐに解消できることに繋がる。
- 専門的な知識からお子さんの評価や支援内容を考え、保護者の方にご説明して支援を実施していくが、民間の児童発達支援も多く、療育を選択できる時代に、親子で通う通園施設を選んで一緒に療育に参加して下さる保護者に対して、保護者の思いを聞く。だけにとどまらず、受け入れる。考えが幼児期の療育に必要と感じる。

分析・検討してみても…

### 事業所の強み

- お子さんに対する支援と保護者に対する支援の両面から行っており、療育場面に保護者も参加し、障害特性についてその場で確認しながらお子さんの特性を共有できる。また、発達段階や障害特性に合った関わり方を、保護者とコミュニケーションをとりながら、実践につなげていける。親子通園の為、施設環境・職員の対応全てオープンに見てもらえる。
- 支援を考える名中で担任以外のスタッフと情報を常に共有することができる。集団の中でも担任以外の職種から専門的な意見を、担任を通して、フィードバックすることができる。
- お子さんに対する支援は、構造化された環境の中で、個々のお子さんが見通しを持って安心して活動に参加し、達成感が持てる取り組みを通して、個々の能力を最大限に伸ばしていけるように、集団の中で個別の理解や興味、ペースに合わせた環境設定や関わりができる。
- 保護者の集団化をすることで保護者同士のつながりや、仲間づくりの場を担っている。また他の方の意見を聞く場、共有できる場を設定できる。

### 事業所の改善点

- 両親就労家庭の増加等、民間児童発達支援の増設等、保護者のニーズも多様化していることから、障害の重いお子さんがいる家庭や地域生活がより安定したものになるよう保護者支援、地域支援において連携をとっていくなど充実を図ることが必要となる。
- 親子通園の中で、保護者が安心して参加できるように、保護者が通園の目的を理解して療育に参加していける為に、支援の意図を明文化していく。
- 増え続けている利用希望児の多様化する障害像やニーズに対応するためには、新たなサービスの創出と、親子通園の目的だけでなく1年間～3年間の療育の親子の見通しを今以上に明文化し、保護者と共有していくことが求められる。

### ～自己評価を行っての事業所としての感想など～

アンケート結果では、昨年度に引き続き、多くの項目で高い評価を頂き大きな励みになりましたが、「はい」以外のお答えに対して、保護者の方の思いや願いを推測し、利用者の方に満足していただけるように改善に努めていきたいと思っております。今後も療育の質を高め、保護者からより一層信頼される事業展開を行っていきたいと思っております。

事業所名 横浜市北部地域療育センター  
担当者 園長 平安寺晴美

## 職員による自己評価

## 保護者による評価

## A 「適切な支援の提供」について

- ・「個別支援計画書」に沿ってお子さんへの支援が適切に提供できているか、その日の療育後に担任間で振り返りを行い、支援方法をチェックし、工夫・改善するようにしている。
- ・「活動プログラム」はお子さんの評価に基づき、その上でねらいをたて、クラス皆が楽しめる活動を考えて設定している。
- ・「活動プログラム」は大きく2つに分け、静的活動と動的活動のバランスを考慮して実施している。

## B 「保護者への説明責任等」について

- ・親子日は療育の終わりの時間に、保護者とその日の振り返りをする時間を設け、個々にお子さんの状況等を確認、共有し、障害特性の理解を深めるよう努めた。
- ・日々の短い時間の振り返り以外で、懇談会を設定することはできていない。年間で日程をとる時間がなく、開催できていないがアンケート結果を踏まえ、今後の課題としたい。

## C 「非常時等の対応」について

- ・非常時の対応については、年度初めの説明会にて「ご利用のしおり」をもとに説明を行った。
- ・避難訓練は年に2回、保護者も一緒に実施した。

## 他 「関係機関との連携」について

- ・児が併用している園への訪問を必要時行い、お子さんの現状の共有や支援の助言を行っている。

## A 「適切な支援の提供」について

- ・「個別支援計画書に沿った支援が行われているか」「プログラムが固定化しないよう工夫されているか」の項目について回答者全員が「はい」と回答。今年度も高い評価が得られた。「ひとりひとりのニーズに合わせた支援内容をしている」「毎週色んなプログラムが用意されていて子どもはとても楽しみにしています」「子ども本人も過ごしやすく楽しそう」というご意見をいただいた。

## B 「保護者への説明等」について

- ・概ね「はい」に○をつけられた方が多数。
- ・「懇談会の開催等により保護者同士の連携が支援されているか」の項目に「どちらともいえない」に○をつけた方が3人、「わからない」に○をつけた方が1名いらした。
- ・「個人情報の取り扱いに十分注意がされていますか」に「わからない」に○をつけた方も1名いらした。

## C 「非常時の対応」について

- ・「災害・緊急時のインフォメーションについて、保護者に周知・説明されている」の項目に「どちらともいえない」に○をつけた方が2名。「非常災害に備えた訓練が定期的に行っているか」の項目に「わからない」に○をつけた方が1名いらした。

## D 「満足度」について

- ・「子どもは通所を楽しみにしていますか」「センターの支援に満足していますか」の項目に全員が「はい」の回答であった。

## 事業所内での分析

○アンケート結果から「個別支援計画書」は、お子さんと保護者のニーズや課題を分析した上で作成ができ、それに沿った支援ができていると感じる。

○お子さんが毎回の通所を楽しみにし、「達成感」を感じられるように、プログラムの工夫を行っていることで高い満足度を得られている。

○日頃から個々にお子さんの状況を保護者と職員とで伝え合い、発達の状況、課題について共通理解が出来ている。一方、今年度も日程がとれず、「懇談会」は設定できなかったため、今後の課題である。

○事業所は本体である北部地域療育センターから離れているが、センターにいる他職種とも必要時連携をとりながら進めている。

○お子さんの必要に応じて、保護者の希望や園の希望も確認しながら、お子さんが通う幼稚園・保育園との連携を行っている。

分析・検討してみても…

### 事業所の強み

- お子さんに対する支援と保護者に対する支援の両面を行っており、療育場面に保護者も参加することにより、保護者がお子さんの持つ障害特性について理解を深めることができる。
- 福祉と医療が一体で運営しているため、担任だけでなく、様々な職種によるチームアプローチによる一貫した療育が実施できる。
- お子さんに対する支援は構造化された環境の中で、個々のお子さんが見通しをもって安心して活動に参加し、達成感が持てる取組をとおして、個々の能力を最大限に伸ばしていけるように働きかけている。

### 事業所の改善点

- 事業所を利用するお子さんの家庭生活や地域生活がより安定したものになるように引き続きお子さんへのよりよい支援を行うとともに、保護者支援、地域支援についても充実を図りたい。
- 増え続けている利用希望児の多様化する障害像やニーズに対応するために、引き続き、地域の関係機関と密接に連携した体制強化を行う。

### ～自己評価を行っての事業所としての感想など～

アンケート結果は、今年度も多くの項目で高い評価を頂き、大きな励みになっております。今後も利用者の皆様に満足していただけるよう、改善すべき点は改善し、サービスの向上に努めていきたいと思っております。今後も保護者の皆様から、より一層信頼される事業展開を行ってまいります。

事業所名 横浜市北部地域療育センター

担当者 園長 君島美和